

明福寺 親鸞聖人坐像

東京都江戸川区江戸川

正しくは、天川山寂光院明福寺という。宗旨は浄土宗である。浄土宗の宗祖法然上人のお弟子で浄土真宗の祖親鸞聖人の旧跡である。由緒は下記の縁起にくわしい。

抑当寺に安置し奉る親鸞聖人の由来は聖人常陸国笠間郡稲田という所に深く隠居しまして五十余歳の頃帰洛の思召有りて嘉禄二年（一二二六年）の春庵室を出で給い同しき六月の初め下総国葛飾郡（今は武州に属す）東葛西領下蒲田村に着きたまう時に炎暑甚だしければ路次の疲れを休たまわんとて池のほとりなる柳の蔭にたゞずみたまう所に一人の老翁そのさま世のつねならざるが長き杖にすがり彼池の面を見渡して曰く浅ましや今日も又雲峰碧天に聳え焰砂平地に走る歎くべし悲むべしと独言して徘徊す聖人御覧じて老翁何をか歎やと宣う翁答えて曰く今炎熱の時にあたりて日を重ねて雨ふらず河の水だにもかかれて田の苗是がために焦る斯の如くなる時は人民餓死近きにあり豈に悲まざるべけんや仰き願くば聖人万民をあわれんで雨乞したまえと申す聖人つらつら聞しめし西に向て礼拝合掌し高声に天下和順日月清明風雨以時災厲不起国豊民安と唱えたまいて念仏数返したまうに忽ち乾の方より雷轟き雨雲一時に天に覆い大雨篠をつくがごとし老翁かぎりなく喜び一まず是なる松蔭にて雨を御凌ぎあるべしと導引奉りて其身は行方しれずなりにけり聖人不思議に思召ながら日もすでに暮ければ此所に一夜を明さんと心静に念仏したまいはや子の刻に及びしほどろみたまう御夢の中に雨雲悉く晴て白日の如し彼池にうつれる星影光を放ち動き躍て八人の童子と化し楽器を持って水面にたつ一人進んで曰く老將軍やおわしますと件の老翁出現して曰く今日聖人の足をとめて諸人の命をすくう少人安慰すべしと其時童子樂をしらぶ鳴声調和山川を動す時に老翁の言く願は



明福寺 本堂外観

聖人暫らく此処に止り末世の衆生を引導したまえ我等念仏弘通を守護すべしと告しと思えば御夢は覺て松吹風の音のみ夢中に聞えし和琴の響かとあやしまる故に此松を今に至るまで和琴の松と名付たり又聖人御在室の間時々御衣など掛たまう故袈裟かけ松ともいえり熟熟（つらつら）夢中の奇瑞を思召し南の方なる林の中を見たまうにかすかなる堂の内に毘沙門天の像あり是即ち変化の老翁なる事を悟りたまう殊に毘沙門天は別して念仏の衆生を守りたまうなれば即ち告に任て彼池の辺に草庵を結びたまひ兼て所持したまう所の聖徳太子直作の真影を安置しましたまうこと三年なり彼池水に影をうつしたまひ自身の像をきざめたまう故に此池を鏡の池といえり即ち今安置し奉る三尺五寸の尊像はなり誠に聖人の徳深き故に毘沙門天の降臨しました諸人の命をすくいたまうことを時の人感じあえり斯て安貞二年（一二二八年）春帰洛したまう遺教相続して隆んなりしが世かわり時うつりて数度の兵乱に潰廃せしが三百四拾余年を経て文明年中（一四六九～八七年）鎮西流の沙門徳与笈公和尚在住し廃る興してより浄土宗風相続せり先に此池において雨を祈り又星の宿れる池なれば鏡が池を又は天川ともいえり二十四輩巡詣記にも親鸞聖人御旧跡下鎌田浄土宗明福寺としるせり是即ち什室の旧記をもって来由のあらましを記すところなりあなかしこあなかしこ

よって、当寺は笈公上人を開山とする。（以下略）

（「天川山明福寺親鸞聖人略縁起」より）



明福寺 親鸞聖人座像



明福寺 鏡池



真宗大谷派
東京教区